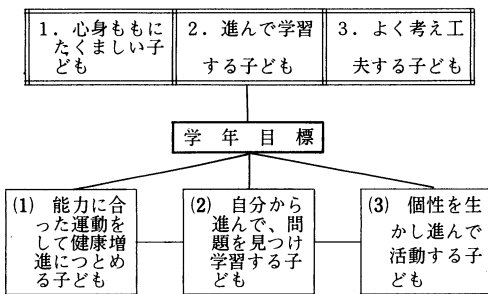


# 地域の特性を生かした学級経営と学習指導

東白川郡矢祭町立内川小学校茗荷分校 佐々木 光 治  
(現任教・石川郡浅川町立浅川小学校)

資料1 学校教育目標と個別目標(一部)



児童名	個別目標	目標達成の具体的施策	達成度ABC 記録・結果
5年 増子 紀美子	・走り高とびで90cmとぶ	・記録カードの利用 ・TTRの利用・ごむの利用	・85cm B
	・走り幅とびで300cmとぶ	・記録カード ・VTR ・ふみ板	・265cm B
	・さか上がりができるようにする。 ・毎日校庭を10週走る。	・てぬぐいの利用 ・VTR ・「矢祭町1週をめさせ」表の活用	A ・2週め A
6年 伊坂 秀樹	・走り高とびで110cm飛ぶ	・同上	・310cm A
	・走り幅とびで310cm飛ぶ	・同上	・345cm A
	・鉄棒で前まわりができるようにする	・てぬぐいの利用 ・VTR	A
6年 鈴木 伸子	・走り高とびで125cmとぶ	・同上 ・教師との競争	・125cm A
	・走り幅とびで360cmとぶ	・同上 ・教師との競争	・445cm A
	・毎日校庭を走る。(10周)	・同じ	A

反省

- ・紀美子～さか上がりが出来ないので、ふみ板や人の背または自分のさか上りをビデオに見せたりいろいろな指導を試みたが、てぬぐいを腰にまいて練習したのが最も効果的だったようである。
- ・秀樹～自分の目標を常に忘れずに練習したのが良い効果に結びついたようである。
- ・伸子～競争相手がいないので、教師(私)との競争が効果をあげたようである。

一、主題設定の理由  
本校では  
①「進んで学習する子供」  
②「心身ともにたくましい子供」  
③「よく考え工夫する子供」  
の三つを教育目標としてかかげ、その実現のため努力している。  
児童は、全校生八名という極少数のためか、与えられたことはやるが、課題を与えられないと学習ができない。創造性に欠けるといふ傾向がある。  
そこで、この少人数という特性を十分考慮した学級経営と学習指導を研究実践すれば、「主体的、創造的に生きる子供の育成」ができると考え、主題を設定した。

二、研究の対象者  
① 教師側  
児童一人一人が立てためあてを達成できるように、目標達成の具体的施策を考える。  
② 児童側  
複式学級における学習指導の間接指導を効果的にし、更に児童の主体的な学習態度を育てるため、五段階指導法(変形四段階指導法)を取り

また、その効果について、客観的に判断し、絶えずよい指導法に改善していく。  
② 児童側  
教育目標、学年目標を考えて自分の目標をたて、自己評価、反省をするようにする。  
また、具体的なもの、継続できるようなものにする。  
(2) 複式指導過程の作成  
① 複式指導計画作成の基本構想(資料2)